（３）東山小学校

学　　校　　長　　岸本　教恵
校内研究代表者　　池谷　亜紀

１．研究主題

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり」
～自分の考えを表現することが楽しいと思える授業づくりを目指して～

２．主題設定の理由

本校は平成３０年度より高知県教育委員会による「英語指導教員配置による英語教育推進事業」を受け、目指す児童の具体像を「授業中に積極的に外国語を使って他者とやり取りをすることにより、自分の考え等を整理、形成、再構築し、目的、状況、場面に応じて自分の思いや意見を外国語で伝え合っている姿、またそうして得た知識や考えを次の授業で活かしたい、学校教育外でも使いたいという姿」と位置付け､児童のコミュニケーション力と教師の授業力向上 Authenticity(真正性)Personalization(個人化)Creativity(創造性)を意識しながら、単元ゴールを明確化した言語活動の実施、場面設定・必然性を意識した授業展開等に取り組んできた。その結果、昨年度末に行った児童の外国語教育意識調査の結果は、「英語（外国語活動・外国語科）の授業は楽しい」の項目で肯定的評価９４．９％（目標数値９０％）、「英語で友達や先生と会話することが楽しい」の項目で８９．３％（目標数値７０％以上）と、目標数値を達成できた項目もあった。これらのことから、研究の成果としては、他者と進んで関わったり、自己表現の楽しさが感じられるようになったりするなど、多くの児童にコミュニケーションの素地ができつつあることや、教員が学年部やブロックで英語指導教員も交えて教材研究を熱心に行うなど、主体的に実践を積み重ねることで指導内容や指導方法についての理解が深まり、自信をもって指導できるようになってきたことが挙げられる。一方、自分の意見に自信の無い児童や意見を言うことが苦手な児童が、思いをうまく表現できなかったり、主体的に表現することができなかったりという場面が多々見受けられ、先の外国語意識調査でも「英語で自分のことや意見を発表することが楽しい」の項目では肯定的評価７７．０％（目標数値８０％以上）と、目標数値にわずかに届かず、「自分自身を表現すること」に課題があるといえる。

そこで今年度は、研究主題を「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり～自分の考えを表現することが楽しいと思える授業づくりを目指して～」とし、昨年度の取組の更なる充実を図る。具体的には、これまでの外国語教育の研究で培った児童同士の関わり方や単元構成等を国語科を中心として他教科の中に広げていきながら、児童の学力向上と自分の考えを表現することが楽しいと思える授業づくりを目指していく。

そのために、①意欲的に取り組むための活動を工夫すること②自分の意見や考えを表現する言語活動の場を設定すること③友だちと関わりコミュニケーションの楽しさを体験する場面を設定すること④単元をバックワードデザインで構成すること⑤1 時間 1 時間の授業を「Do-Learn-Do again 」を意識しながら構成すること⑥質を高める中間指導の在り方を考えることの 6 点を踏まえて授業づくりを行い、児童のコミュニケーション力を高めるための研究の深化を図る。

以上のことから、今年度の研究主題を上記のように設定した。

３．研究の進め方と方法

（１）運営

①研究推進委員会（月３回月曜日　管理職・研究主任）

②研究部会（学力部会・授業づくり部会・児童理解部会）

各部において企画された取組は、研究推進委員会等の承認を得る。

③学年部会（毎週金曜日）

④校内支援委員会（月１回火曜日　特別支援教育）

（管理職・特別支援コーディネーター・養護教諭・該当児童学級担任）

⑤校内支援会（生徒指導）

（管理職・生徒指導担当・不登校担当・人権教育主任・養護教諭・該当児童学級担任・SC）

（２）校内研の持ち方

・研究日は毎水曜日（１５：２０～１６：４５）とする。（第２週…定例職員会）

・研究日は全教職員による全体研修と各研究部による研究部会等を行う。
・研究推進委員会で企画立案し、全体に提案し、共通理解を図り実践していく。

（３）授業研究

・全校研究授業は、外国語活動及び国語科とし、各学年年間１本の全校研究授業を実施する。
・国語科の研究授業は、外国語活動及び外国語科の授業づくり及び言語活動の在り方を活かした単元構成・授業構成・言語活動とする。
・全校研究授業を実施しない学級はブロックで研究授業を行う。その場合、全校研究授業の事前授業でも可とする。
・全校研究授業の前に各ブロック（低・中・高）で事前に教材研究及び指導案作りを行い、全体へ提案する。
・全校研究授業の前に校内研修での指導案検討（模擬授業）を位置付ける。
・研究協議の視点は学年部で決め、その視点に沿って参観・研究協議を行う。
・全校研究授業の研究協議の司会は授業づくり部会が行い、記録は各ブロック（低・中・高）で行う。良かった点と課題点を明確にし、次へと繋げていく。

４．今年度の取組

４月	２日	○東山小 UD ガイドブックの確認○「東山小の当たり前」の確認
	５日	○（研究主題・主題設定の理由・研究組織と運営・研究の進め方とその方法・校内研修年間計画）の提案・確認 ○「東山スタイル」「新東山スタイル」東山授業スタンダード」の確認 ○各研究部会（ねらい・年間計画検討）
	21 日	○各研究部会より（ねらい・年間計画）の提案・確認 ○外国語活動・外国語科年間指導計画・CAN-DO リストの確認 ○単元構成の仕方の確認
	28 日	○「UD の視点を取り入れた東山小授業づくりのスタンダード」提案・検討 ○授業改善プラン（取組の重点・中間目標）提案・確認
５月	19 日	○外国語活動指導案検討　２年１組　授業者　木村教諭
	26 日	○外国語活動研究授業　２年１組　授業者　木村教諭 【教材名】「２年１組のなんじゃもんじゃゲームをつくろう」
６月	16 日	○国語科指導案検討　６年１組　授業者　奥宮教諭 ○研究主題及び構造的な板書と連動させたノートづくりの確認
	23 日	○国語科研究授業　６年１組　授業者　奥宮教諭 【教材名】防災ポスターを作ろうー南海トラフ地震への備え 研究協議　助言者　西部教育事務所　山﨑　美樹　指導主事 ※国語科の授業づくり・単元構成について講話をしていただく。 ○第１回外国語アンケート分析結果報告・改善策について
	30 日	○外国語活動指導案検討　３年１組　林教諭
７月	14 日	○外国語活動研究授業　３年１組　林教諭 【教材名】「Who　am　I　？　クイズをしよう」 研究協議　助言者　西部教育事務所　池田　真代指導主事 ※「話すこと[やり取り]」ウ　について学習指導要領解説を用いて確認。また、「言語活動」についても池田指導主事の助言を基に全体で確認を行う。
	28 日	○研究主題を達成するための取組の振り返り　○研究部会（集約）
８月	５日	○標準学力調査、全国学力状況調査分析結果報告及び改善策について ○２学期の取組の提案（研究主任・各研究部会より）
	25 日	○授業改善プラン（中間検証・年度末目標）提案・確認 ○各種学力調査を受けた全学年共通の取組（研究主任より） ○２学期の取組の確認（研究主任・各研究部会より）
９月	29 日	○国語科指導案検討　５年２組　授業者　池谷教諭
10 月	13 日	○国語科研究授業　５年２組　授業者　池谷教諭 【教材名】和の文化を受けつぐ～和菓子をさぐる

		※「読むこと」においては、考えの根拠を常に本文と照らし合わせながら読み進めていくこと、また学習指導要領を基に校内研修を進めていくことを確認。
	20 日	○外国語活動指導案検討　４年１組　授業者　渡邊教諭
	27 日	○外国語活動指導案検討　４年１組　授業者　渡邊教諭 【教材名】「皿鉢料理の紹介を通して ALT と楽しくやりとりしよう！」 研究協議　助言者　西部教育事務所　池田　真代指導主事 ※練習してきた決められた表現を使った反復練習のようなやり取りではなく、伝え合う目的や必然性のある場面でのコミュニケーションを大切にしていく。言語活動の充実に向けての「やりとり」や「中間指導」について再度確認。 ○算数科講話　講師　西部教育事務所　上岡　栄二　指導主事
11 月	17 日	○国語科指導案検討　１年２組　授業者　今井教諭
	24 日	○国語科研究授業　１年２組　授業者　今井教諭 【教材名】「めざせ！のりものはかせ！ ～はたらくのりものずかんをつくってしょうかいしよう～」 ※外国語科の授業の流れを生かすのであれば、例えば「書くこと」や「話すこと・聞くこと」等の領域を限定して研究を深めていく方が効果的でないか。
12 月	22 日	○単元テスト分析結果報告○研究集録作成（担当・計画等）について
	27 日	○研究部会（２学期の取組の集約・研究集録用様式検討） ○第２回外国語アンケート分析
１月	12 日	○３学期の取組について（研究部会より）○研究集録用様式提案
	19 日	○オール四万十実践交流会発表資料提案
２月	9 日	○高知県版学力調査を受けて　西部教育事務所指導主事講話 ○標準学力調査分析結果及び改善策報告
	16 日	○研究部会報告（今年度の集約）
３月	9 日	○第３回外国語アンケート分析結果報告 ○授業改善プラン（年度末検証）の確認

５．成果と課題（成果○　課題●）

○外国語活動・外国語科や国語科の授業づくりにおいて、全体で学習指導要領解説を確認したり、授業づくりについて話し合ったりすることで学習内容の系統性や統一して取り組むべき内容が共有できた。

○外国語活動・外国語科の授業づくりで学んだことを国語科に広げたことで、目的意識・相手意識を持たせた単元ゴールについて等、国語科の単元づくり・授業づくりに生かすことができた。

○系統性や CAN　DO リストを確認しながら教材研究をすることで、より外国語活動の授業づくりについて理解することができ、学びになった。

○「英語で自分のことや意見を発表することが楽しい」の項目が、昨年度末と比較して 3.1%以上上昇した。児童とともに単元計画を立てたり、児童が考えたことが実現したりと、児童主体で授業を進めていこうとしたことや、真正性を意識して授業づくりを行ったこと、児童が交流の幅を広げられるようにコミュニケーションを工夫したことが要因ではないか。

○自己表現すること自体が素晴らしいということを日頃から全教科を通じて価値づけしたり、中間指導や振り返りの際に良かった点を意識して評価したりしたことで、学習に対して目標を持ち、前向きに取り組もうとする児童が増えた。

●自分の考えや文章を書くことに対して苦手意識を持っている児童が少なくない。自分の考えを書く時間を必ず設定し、書くことに慣れさせていく。

●外国語科では、形式的なやり取りではない児童主体で行われる言語活動や、学びの質を高める中間指導について、十分に共有できなかった。今後、継続して研究を深めていく必要がある。

●研究する領域を絞ったり言語活動や中間指導に焦点を当てた協議等が十分ではなかったので、研究授業や協議の系統性が持てなかったように感じる。今後は領域等を絞って研究していく必要がある。

●専科教員との連携が十分に取れなかったので、今後は情報を密に交換し、連携していきたい。

●効果的な加力指導について、再検討する必要がある。